

概要版

第3次臼杵市総合計画

2025-2034

次世代へ誇れるまち臼杵

～^{むす}揃ぶ、つなぐ、そして創造する～



計画の概要

1 計画策定の目的

総合計画は、総合的かつ計画的な市政運営を図るための基本となる市の最上位計画として策定し、第3次臼杵市総合計画は、将来におけるあるべき姿と進むべき方向についての基本的な指針とします。

2 計画策定の基本方針

第3次臼杵市総合計画は、次に掲げる3つの基本方針に基づき策定しました。

(1) これまでの計画を踏まえて次世代へつなぐ

2005(平成17)年に旧臼杵市と旧野津町が合併して誕生した新臼杵市は、今年で20周年を迎えました。本計画は、これまでの取組を踏まえ、時代の変化と要請に的確に対応し、次世代へつなぐ指針としてとりまとめています。

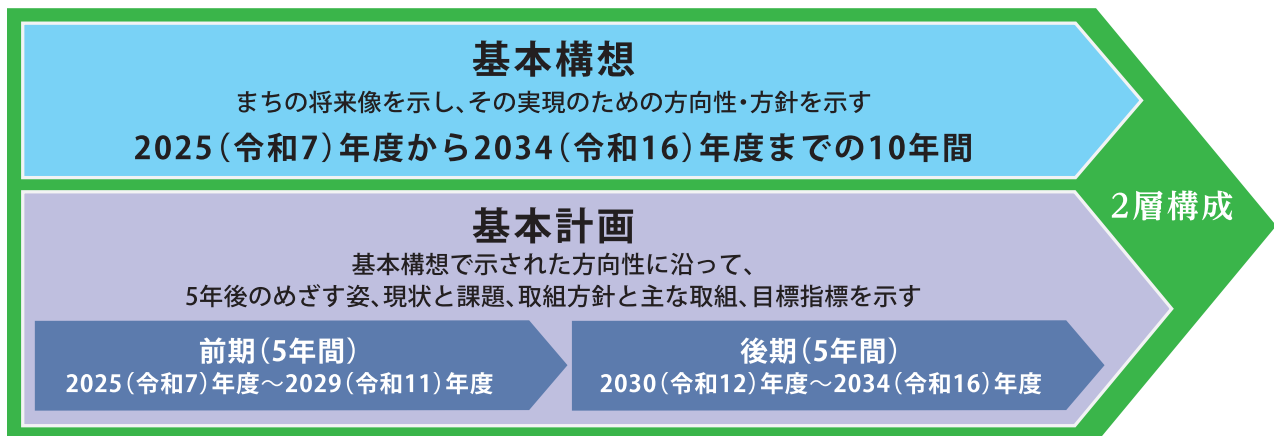
(2) 市民が主役のまちづくり

本計画の策定においては、中学生・高校生をはじめとする市民や関係団体へのアンケート、市民ワークショップなど、多様な手法を用いて幅広い意見を集約しました。これにより、真に市民の声を反映した計画となるよう努めました。今後も、本計画の推進により、市民が幸せを実感できる「市民が主役のまちづくり」を進めていきます。

(3) 10年先、さらにその先を見据えたまちづくり

本市の未来を担う子どもたちのために、10年先、さらにその先を見据えたまちづくりに取り組む必要があります。食文化をはじめとする多様な本市独自の取組の深化など、持続可能な臼杵の実現に向けた取組を積極的に推進していきます。

3 計画の構成及び期間



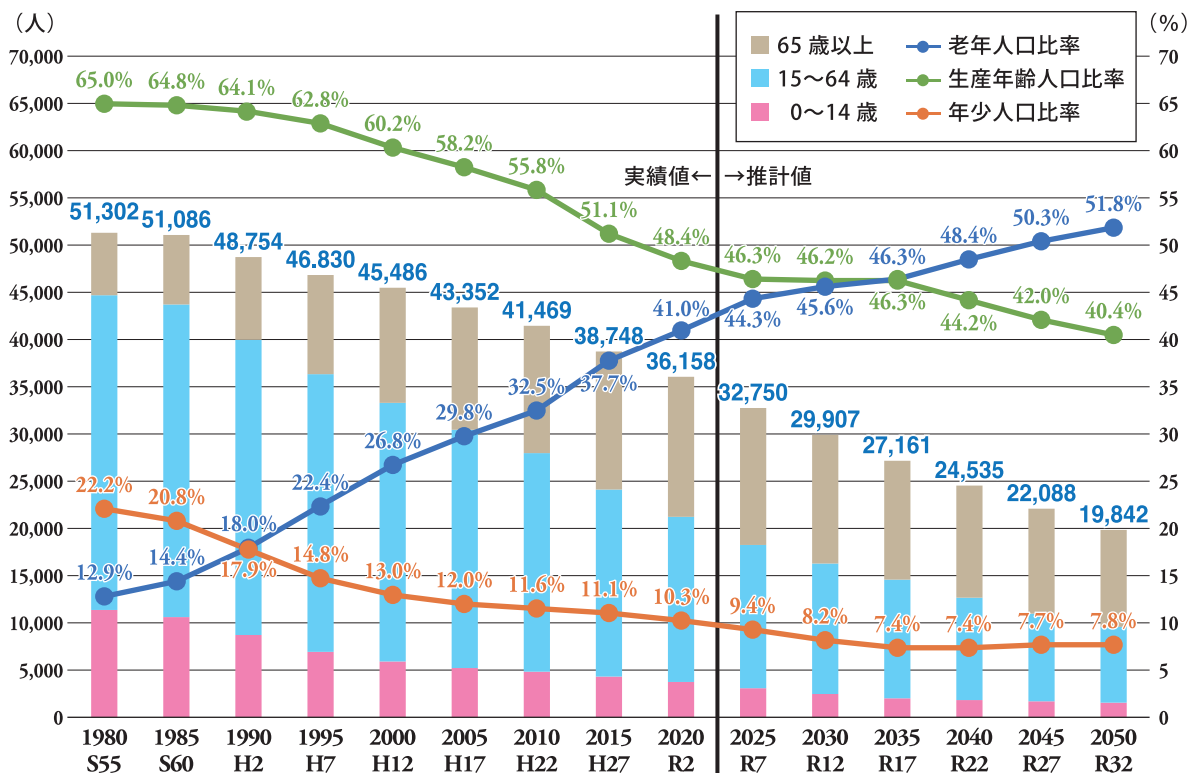
序論

人口及び財政の状況

1 将来人口の見通し

本市の人口の推移を見ると、1980(昭和55)年に51,302人であった総人口は、2020(令和2)年には、36,158人と15,144人減少しています。2025(令和7)年以降の将来推計も総人口は減少する見通しとなっています。

また、年齢3区分(0~14歳・15~64歳・65歳以上)を見ても、少子高齢化が進展し、生産年齢人口が大幅に減少する見通しとなっており、65歳以上人口は2030(令和12)年に45%を超える割合になっています。



※総人口は不詳人口込みの数字のため、各年齢別人口の合計値と総人口は必ずしも一致しない
出典: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

2 財政状況

本市の歳入は、2020(令和2)年度に、新型コロナウイルス感染症対策の補助金等の影響により、大幅に増加しましたが、その後は減少傾向にあります。

また、歳出は2020(令和2)年度に新型コロナウイルス感染症対応などの影響で大きく増加したあと、2021(令和3)年度に減少しますが、2019(令和元)年度の水準と比べると依然として高い金額を推移しています。

今後、まちの将来像の実現に向け、効率的かつ効果的な取組の推進が求められます。

年度	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11
歳入	219.8	229.5	275.2	244.2	239.2	240.3	224.3	218.0	219.9	222.5	214.5	213.1
自主財源	61.9	66.8	62.6	59.8	60.9	68.7	60.5	59.5	58.8	58.2	58.4	58.1
依存財源	157.9	162.7	212.6	184.4	178.3	171.6	163.8	158.5	161.1	164.3	156.1	155.0
歳出	215.2	225.4	270.6	239.5	234.2	235.6	223.9	217.7	221.6	223.9	216.1	214.5
基金残高	82.3	81.7	84.1	92.1	93.5	90.8	93.0	92.6	90.4	88.8	86.7	86.3

実績値 ← → 推計値

※2024(R6)年度以降は推計値
出典: 白杵市中期財政計画

まちの将来像

本計画で掲げるまちの将来像は次のとおりです。

まちの将来像

次世代へ誇れるまち臼杵

～^{むす}掬ぶ、つなぐ、そして創造する～

まちの将来像「次世代へ誇れるまち臼杵^{むす}～掬ぶ、つなぐ、そして創造する～」には、次のような思いを込めて、これからはじまる臼杵のまちづくりを具現化しています。

現在の臼杵には、「自然が豊か」「景観の良さ」「食文化」「歴史」「人の温かさ」といった魅力があります。これらの魅力に加え、文化とともに育まれた「おだやかさ」と「たくましさ」が、時を重ねるごとにまちとしての味をさらに深めています。臼杵に住む人々が、これら臼杵の魅力を再認識し、自分たちのまちに対して誇りを持っています。

このような臼杵の魅力や誇りを大切にし、更なる臼杵の新しい魅力に気づき、創り出していきます。そのために、臼杵で生まれ育った人、臼杵に移住した人、臼杵で新たにチャレンジする人など、あらゆる人が臼杵でつながり、それぞれが臼杵を舞台に光り輝くことができるまちが実現しています。

これからも、臼杵の変わらない景色や人のあたたかさに触れ安心してほっとできる場所として100年先も200年先も臼杵がここにあり続けることで、人と人をつなぎ、心と心を結び、時代と時代をつないでいきます。



^{むす}
掬ぶ

(水などを)左右の手のひらを合わせてすくうこと。

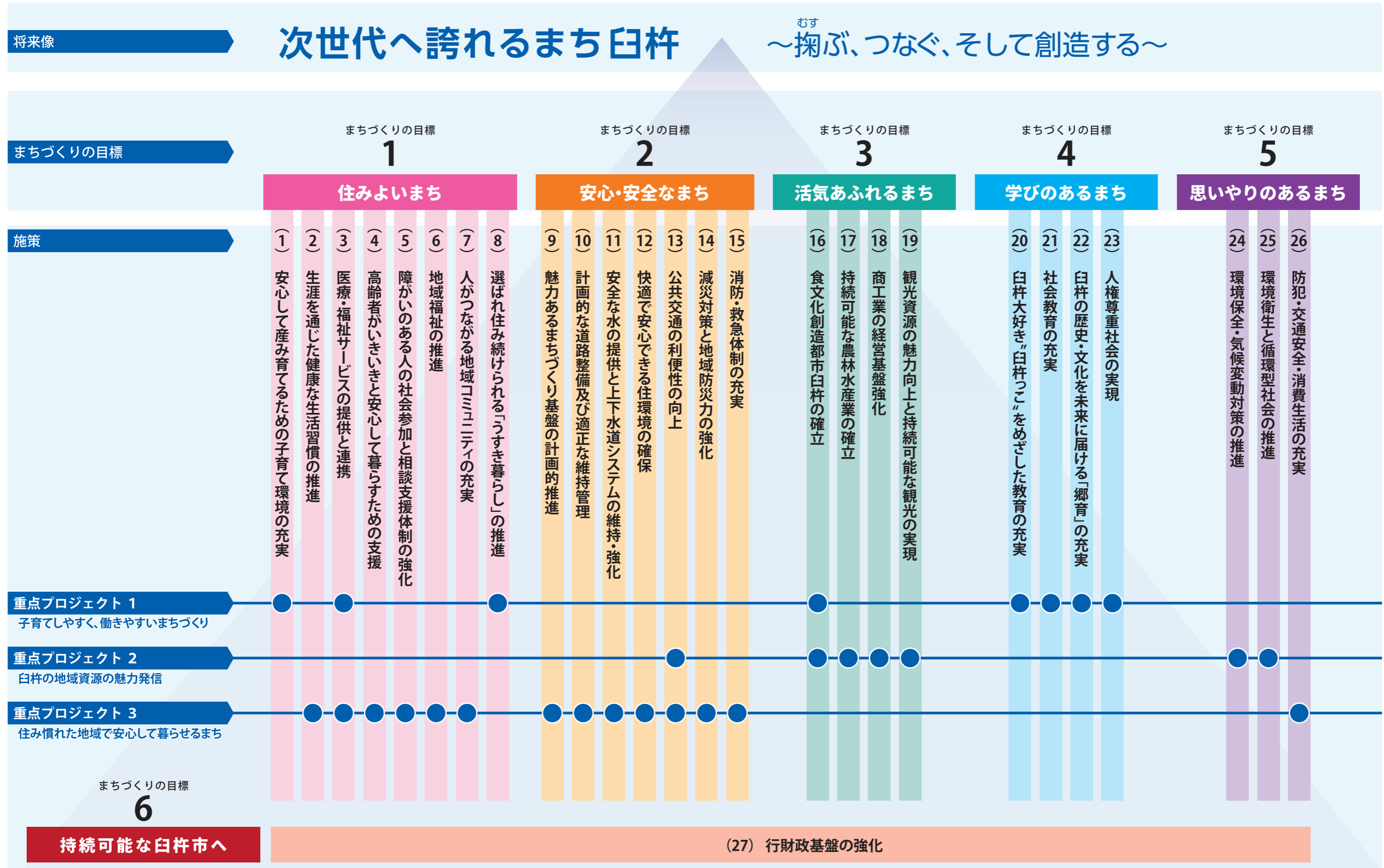
ここでは、「先人が紡いできた、多様な歴史・文化・真心を掬(すく)い上げ、知り、学び、受け継いでいく」という意味が込められている。

まちの将来像は、市民ワークショップや各アンケートなど市民のみなさんと一緒に検討を重ねてキーワード出しやそれぞれが思い描く「こんなまちをつくりたい」「こんなまちになってほしい」を踏まえ、未来へと続く白杵のまちを表現しています。



施策の体系

本計画の施策体系は次のとおりです。



臼杵市のまちづくりにおける 重要な取組 (重点プロジェクト)

重点
プロジェクト

1

子育てしやすく、 働きやすいまちづくり

～このまちで育つ子どもたちが、
夢と希望が描けるように～



これまでに保育料の無償化や子ども医療費の無償化、臼杵市子ども・子育て総合支援センター「ちあぼーと」の創設などの子育て支援の取組を進めています。

子どもから大人までみんなが挨拶をするなど、臼杵で暮らす人々の思いやりや人柄が自然とつくり、まちの魅力となっています。このような環境で育つ子どもの素晴らしさを大切に守り続け、若い世代が「臼杵で暮らしたい」「子育てをしたい」、臼杵で育つ子どもたちが「このまちで成長したい」と思えるまちをつくりたい。



移住者市内交流ツアー



電子黒板を活用した授業風景

施策の進捗を測るものさし(指標)

	基準値 2023		目標値 2029
この地域で子育てしたいと思う親の割合	98.3%	↗	100%
移住者数 (2015(平成27)年度以降の累計)	2,030人	↗	3,240人

重点プロジェクトの役割

本計画における「重要な取組(重点プロジェクト)」の推進により 市民の「ウェルビーイング(Well-being)」向上を図ります。

ウェルビーイングとは、一人ひとりが様々な人や社会とのつながりの中で、日々自分らしく生き、満足感や心の豊かさを実感できる状態を表す言葉です。これは物質的な豊かさだけでなく精神的な充実も含む、近年重視されている価値基準です。

重点
プロジェクト

2

白杵の地域資源の 魅力発信

～第一次産業や地場企業の基盤を強化し、
食文化創造都市を市民みんなで確立させ、
日本中・世界中に情報発信～



経済動向の大きな変化を追い風とし、デジタル技術を活用しながら、あらゆる手段で農林水産業をはじめとする地場産業の振興に取り組み、特に若い世代の生活を豊かにします。

白杵にはほかにはない価値のある魅力的な地域資源にあふれています。その中で、ユネスコ食文化創造都市をはじめとする白杵の魅力を市民が知り、日本、そして世界に向けて情報発信し、白杵の素晴らしさで多くの人を魅了していきます。



環境にも配慮した循環型の有機農業



国宝白杵石仏まつり

施策の進捗を測るものさし(指標)

	基準値 2023		目標値 2029
市民のユネスコ食文化創造都市の認知度	—%	↗	80%
「ほんまもん農産物 ¹ 」及び有機栽培の圃場面積(累計)	97ha	↗	105ha
白杵市の二酸化炭素排出量(年)	480.8千t	↘	400.5千t

用語説明 ¹完熟堆肥「うすき夢堆肥」で土づくりを行った圃場で、栽培期間中に化学肥料・化学合成農薬を使わずに栽培した農産物であり、白杵市が生産工程記録を審査し、白杵市長が認証した農産物。

重点
プロジェクト

3

住み慣れた地域で 安心して暮らせるまち

～白杵独自の医療・介護の安心できる仕組みを構築し、
防災基盤等を含めた持続可能性の確保～



これまでに市内の医療・福祉・地域の関係者とともに取り組んできたことを継続しながら、地域振興協議会の活動支援や認知症予防など高齢化の進展に伴い対応が必要な課題を解決し、地域共生社会¹を実現します。

東日本大震災や能登半島地震のような大規模災害への備えにしっかり取り組み、医療・介護サービス、防災基盤、インフラ整備を進め、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができるまちをつくりまします。



避難訓練と炊き出しを組み合わせた防災訓練



健康教室

施策の進捗を測るものさし(指標)

	基準値 2023		目標値 2029
「うすき石仏ねっと ² 」加入者数 (2012(平成24)年度以降の累計)	25,298人	↗	28,300人
認知症サポーター ³ 養成講座受講者数 (2006(平成18)年度以降の累計)	10,605人	↗	13,060人
ジュニア防災リーダー ⁴ 養成人数 (2015(平成27)年度以降の累計)	146人	↗	266人

用語説明 ¹制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

²病院、診療所、歯科診療所、調剤薬局、介護施設、居宅介護支援事業所、消防署などの参加施設の間で病気、薬、検査結果などの情報を共有する白杵市内のネットワークシステム。現在では、市内の病院だけでなく、市外の一部の病院などと連携が図られている。

³認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職域で、認知症の人や家族に対してできる範囲で手助けをする人のこと。

⁴市内中学2年生を対象とした、将来の地域防災の担い手となる人材育成のこと。

Memorandum

メモ



概要版

第3次臼杵市総合計画 (2025-2034)

第3次臼杵市総合計画前期基本計画 (2025-2029)

臼杵市 秘書・総合政策課

〒875-8501 大分県臼杵市大字臼杵72番1

TEL:0972-63-1111

令和7年7月発行



USUKI
CITY OF GASTRONOMY



unesco
Member of
the Creative Cities Network

詳しくはWEBで

第3次白杵市総合計画

検索



白杵市は2021(令和3)年11月にユネスコ創造都市ネットワーク(食文化分野)への加盟が認められました。